

消化管内科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	内視鏡的寛解の潰瘍性大腸炎患者における1年以内のステロイド投与歴と再燃の検討
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 道勇学
担当科等	消化管内科
研究責任者	助教 杉山智哉
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	横浜市立市民病院 研究責任者 福田知広
研究の意義・目的	臨床的寛解（症状が消失した状態）内視鏡的寛解（内視鏡的に大腸粘膜の炎症が抑えられている状態）を達成している潰瘍性大腸炎において、1年以内にステロイド使用歴のある方（寛解導入からの期間が短い患者：直近ステロイドあり群）と、1年以内にステロイド使用歴のない方（寛解導入からの期間が長い患者：直近ステロイドなし群）を比較します。そして、ステロイドによる寛解導入療法を必要とする重篤な疾患活動性があったことが、その後に重篤な再燃のリスクが高いことを検証することを目的としています。
対象となる患者さん	2017年1月から2017年12月の間に当院において下部内視鏡検査を実施した16歳以上の潰瘍性大腸炎の患者さん
研究の方法	診療記録より当院研究担当医師が情報を収集し、調査票へ入力します。入力した調査票は研究事務局（横浜市立市民病院 消化器内科）で保管され、集計・解析されます。この研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがあります。
研究期間	倫理審査承認日 ~ 2025年12月31日
研究に用いる試料・情報	情報：生年月日、性別、潰瘍性大腸炎診断日、喫煙歴、内視鏡検査施行日、罹患範囲、PR02 score（排便回数、直腸出血）、治療歴、ステロイド開始日、下部内視鏡検査所見、血液検査所見、病理組織学的寛解の有無、再燃の有無等
外部への試料・情報の提供	提出先：横浜市立市民病院 福田知広 匿名化し、dataとして提供
試料・情報の利用又	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2025年12月31

は提供を希望しない 場合	日までに下記問い合わせ先まで申し出てください。
問い合わせ先	愛知医科大学病院 消化管内科 担当者：助教 杉山智哉 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311（内線 23480）